

— 経営理念 —

ともに挑み ともに繋ぐ

常にお客様目線で上質な価値を創出する

— 行動指針 —

私たちは、全ての仲間と手を取り合い、
創出する喜びを分かち合います。

私たちは、失敗を恐れず、
常にチャレンジャーであり続けます。

私たちは、お客様と誠実に向き合い、
信頼される存在を目指します。

私たちは、こだわりと思いやりをもって、
心地良さの実現を追求します。

私たちは、法とその精神を守り、
安心・安全なものづくりを約束します。

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月に開催

基準日	定時株主総会の議決権	3月31日
	期末配当金	3月31日
	中間配当金	9月30日

公告方法 電子公告
 公告掲載URL <http://www.fkkasei.co.jp>
 ※事故その他やむを得ない事由によって電子公告
 できない場合は、日本経済新聞

単元株式数 100株

株主名簿管理人 三井住友信託銀行株式会社
 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) 0120-782-031 (フリーダイヤル)



Business Report

第112期 報告書

2022年4月1日～2023年3月31日

藤倉化成株式会社



To Our Shareholders

株主の皆さまへ

株主の皆さまには格別のご高配を賜り厚く御礼申しあげます。
当社第112期（2022年4月1日から2023年3月31日まで）
の営業概況等につきご報告申しあげます。

2023年6月

当連結会計年度における我が国の経済は、ウィズコロナの新たな段階への移行が進み、緩やかな持ち直しの動きが見られましたが、原材料価格の高騰、世界的な半導体不足の影響を受け、先行き不透明な状況で推移いたしました。

海外経済におきましても、ウクライナ情勢の長期化に加え、世界的なインフレや各国の金融引き締め政策による影響もあり、今後も先行き不透明な状況で推移するものと思われます。

全てのセグメントにおいて原材料価格の高騰、エネルギーコストや物流コストの増加により収益が圧迫される結果となりました。引き続き、価格交渉やコスト削減等の収益改善策を進めてまいります。

このような環境の下、当連結会計年度の売上高は508億4千3百万円（前連結会計年度比5.5%増）となり、営業利益は3億5千1百万円（同71.5%減）、経常利益は5億3千4百万円（同63.2%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は1千万円（同98.7%減）となりました。

今後の経済見通しにつきましては、国内、海外ともに半導体不足、原材料費の高騰、ウクライナ情勢等の影響もあり、引き続き予断を許さない状況が続くものと思われます。

当社グループにおきましては、コーティング事業を中心にグローバル展開を進めており、米国、欧州、ASEAN諸国、中国及びインドにおいて現地法人を設立し、「藤倉化成グローバルネットワーク」として、世界各地への供給網の整備を行っております。

ASEAN諸国において安全操業と品質確保のため自社工場の建設を進めており、2022年度はインドネシアの現地法人の連結子会社化と自社工場建設を決定いたしました。当社の強みである、きめ細かい供給体制の強化に努めてまいります。

国内におきましては、当社のメイン工場である佐野事業所のリニューアル工事が進行中です。さらに、現在新工場の建設計画にも着手しており、第11次中期経営計画期間での着工を目指し準備を進めてまいります。

また、当社グループは、2023年4月より「第11次中期経営計画／次世代に繋げる新しい姿の構築」をスタートいたしました。

事業環境の変化が激しい時代において、持続的な成長を遂げられるよう中期経営計画に掲げた施策を着実に実行し、企業価値の向上に努めてまいります。

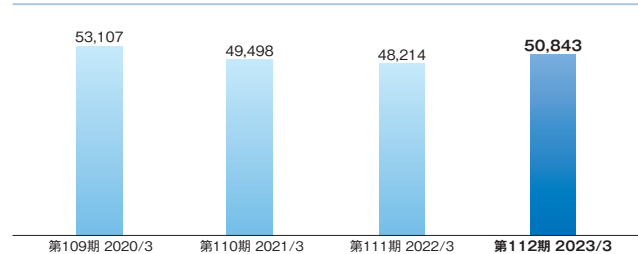
株主の皆さまにおかれましては、今後ともなお一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申しあげます。

代表取締役社長 加藤 大輔

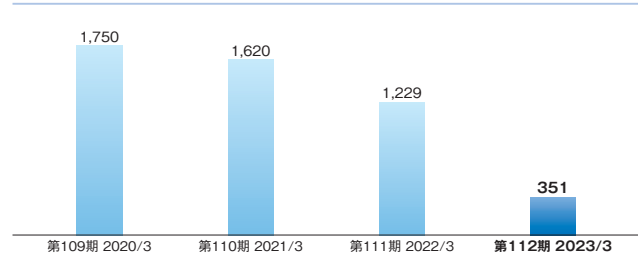
Financial Highlights

連結財務ハイライト

売上高 (単位：百万円)



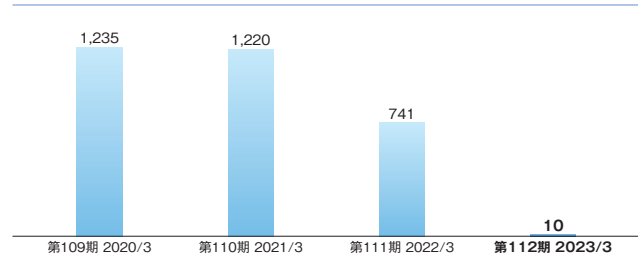
営業利益 (単位：百万円)



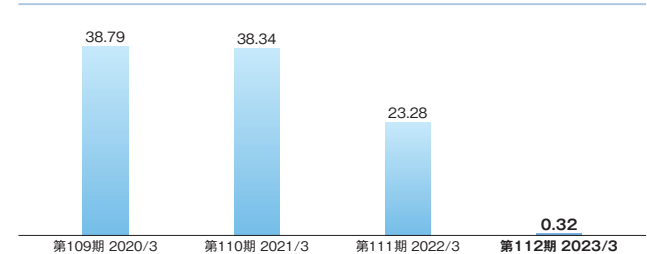
経常利益 (単位：百万円)



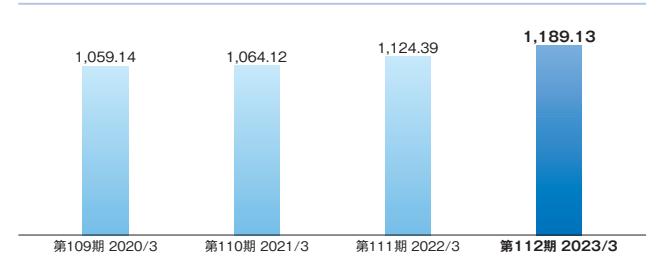
親会社株主に帰属する当期純利益 (単位：百万円)



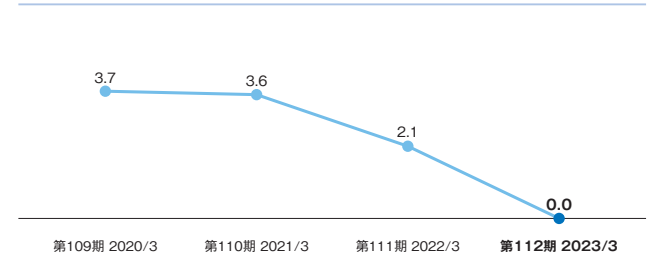
1株当たり当期純利益 (単位：円)



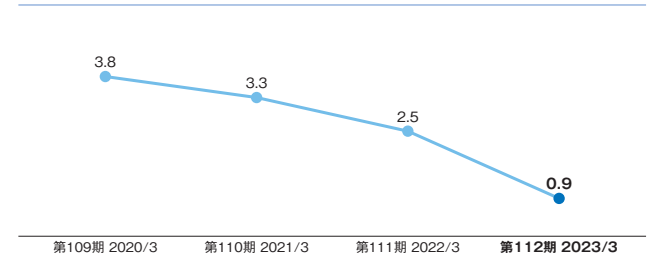
1株当たり純資産額 (単位：円)



自己資本利益率 (ROE) (単位：%)



総資産事業利益率 (ROA) (単位：%)



Segment Review

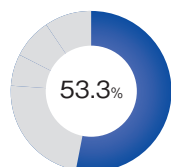
(単位：百万円)

コーティング事業



主要分野

自動車内装分野、自動車外装分野、
自動車電装部品分野、
化粧品容器関連分野、
家電分野、ホビー分野、
農業資材分野



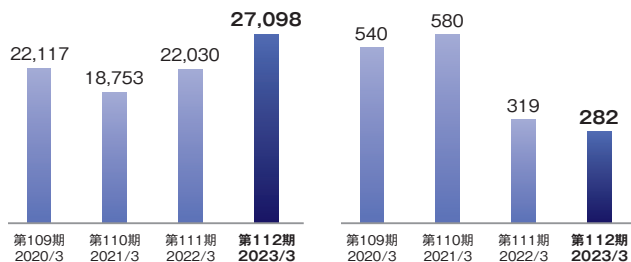
売上高構成比

プラスチック用コーティング材 (『レクラック』・『フジハード』など) を取扱うコーティング部門におきましては、主力の自動車向け塗料は、主要顧客の減産等の影響もあり国内での需要が低調に推移いたしました。一方、海外におきましては自動車生産台数が回復傾向にあり需要が堅調に推移いたしました。

非自動車分野では、ホビー用塗料が中国のロックダウンの影響を受け低調に推移しました。また、化粧品容器向け塗料の販売は、マスク定着の影響による市場の低迷が続きましたが、前期並みの売上となりました。

売上高
270億9千8百万円
(前連結会計年度比23.0%増)

セグメント利益
2億8千2百万円
(前連結会計年度比11.6%減)

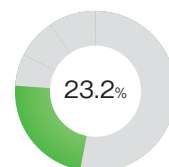


塗料事業



主要分野

外装建材分野、
内装建材分野、
エクステリア材分野、
住宅設備分野



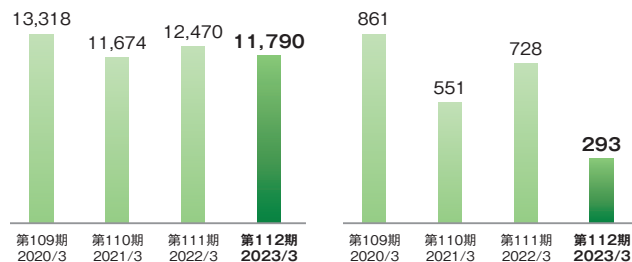
売上高構成比

建築用塗料を取扱う塗料部門におきましては、新築向け塗料の販売は、一部顧客のウッドショック等による受注制限の影響や新規受注棟数の減少を受け、需要が低調に推移いたしました。

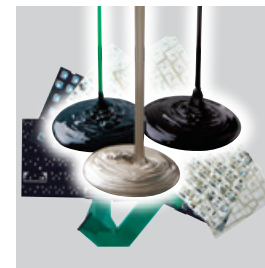
リフォーム向け塗料の販売におきましても、主要顧客において、外壁の高耐久化やタイル化により塗り替え対象物件が減少していることを受け、需要が低調に推移いたしました。

売上高
117億9千万円
(前連結会計年度比5.5%減)

セグメント利益
2億9千3百万円
(前連結会計年度比59.8%減)

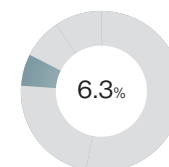


電子材料事業



主要分野

通信機器分野、
表示体分野、
家電分野、
車載用電子機器分野、
OA機器分野



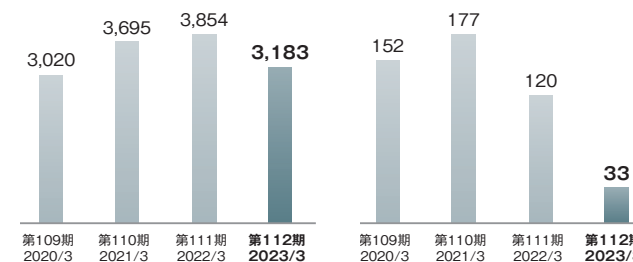
売上高構成比

導電性ペースト材 (『ドータイト』) などを取扱う電子材料部門におきましては、下期に入り、パソコン向け製品の需要が急激に悪化し低調に推移いたしました。

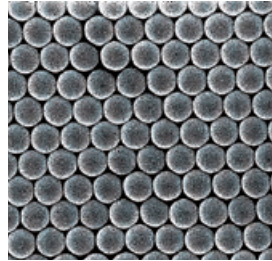
また、車載向け製品も、顧客の減産の影響を受け低調に推移いたしました。一方、海外の一部地域におきまして、自動車の安全装置部品の需要が堅調に推移いたしました。

売上高
31億8千3百万円
(前連結会計年度比17.4%減)

セグメント利益
3千3百万円
(前連結会計年度比72.7%減)



化成品事業



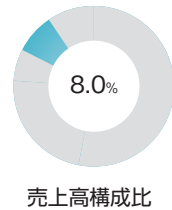
主要分野

トナー用樹脂分野、
電荷制御剤分野、粘・接着剤分野、
ディスプレイデバイス分野、
メディカル材料分野、
電子部品関連分野

『アクリベース』の商品名で販売する機能材料やトナー用レジ、メディカル材料などを取扱う化成品部門におきましては、トナー用レジの販売は、上期は堅調に推移いたしましたが、下期に入り顧客の在庫調整や客先製造ラインの改修が行われた影響で低調な結果となりました。

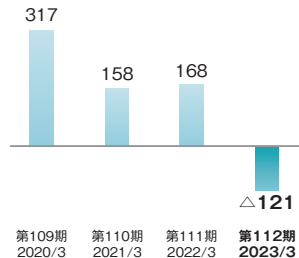
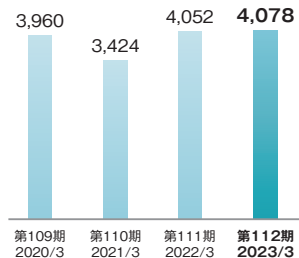
一方で壁紙用の粘着剤の販売は、好調に推移いたしました。

また、メディカル材料分野におきましては、海外への試薬の販売が堅調に推移いたしました。



売上高
40億7千8百万円
(前連結会計年度比0.6%増)

セグメント損失
1億2千1百万円
(前連結会計年度比 -)



合成樹脂事業

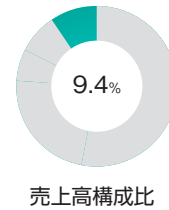


主要分野

高性能光学材料分野、
工業用銘板分野、
産業資材分野

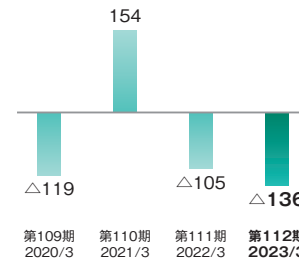
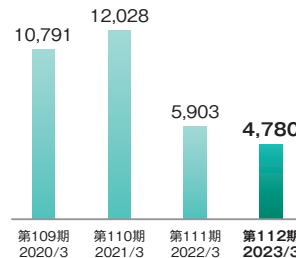
子会社藤光樹脂株式会社などが取扱うアクリル樹脂の原材料・加工品の販売におきましては、リチウムイオン電池向け製品の販売は堅調に推移いたしました。一方、上期に好調だった車載向け製品の販売は下期に入り主要顧客の減産の影響もあり低調に推移いたしました。

また、液晶テレビ用製品や樹脂原料の販売が引き続き低調に推移いたしました。



売上高
47億8千万円
(前連結会計年度比19.0%減)

セグメント損失
1億3千6百万円
(前連結会計年度比 -)



会社概要 (2023年3月31日現在)

会社名 藤倉化成株式会社
本店所在地 東京都板橋区蓮根三丁目20番7号
本社事務所 東京都港区芝公園二丁目6番15号
設立 1938年9月22日
資本金 53億5千2百万円
従業員数 連結 1,255名
単体 444名
連結子会社数 国内 4社 海外 15社
ホームページ <http://www.fkkasei.co.jp>

株式の状況 (2023年3月31日現在)

発行可能株式総数 84,000,000株
発行済株式の総数 32,716,878株
株主数 4,174名

TOPIC

第11次中期経営計画がスタートしました

当社グループは2023年4月より第11次中期経営計画をスタートいたしました。

今回の中期経営計画は「次世代に繋げる新しい姿の構築」を基本コンセプトとし、2030年のありたい姿「共創×進化×化学の力で新たな価値を提供する」を実現するための礎の期間と位置付けました。

前中期経営計画からの大きな変化点として事業ポートフォリオの導入が挙げられます。当社の事業ポートフォリオは、収益性と成長性の2つの軸で、「そだてる・のばす・ささえる」の3つの領域を表現しており、5つの事業セグメントごとにその事業展開にあわせて設定しております。

また、以下に掲げる5つの戦略と株主還元、資本政策を実践することにより、2030年のありたい姿の実現を目指します。

■5つの戦略

- 事業領域の3つの戦略
「技術開発の拡充」「注力事業の強化」「基盤事業の収益性拡大」
- 経営領域の2つの戦略
「サステナビリティへの取り組み」「経営基盤の強靱化」

■株主還元、資本政策

- 第11次中期経営計画期間中 総還元性向70%以上を目指す(配当16円以上は維持)
- ROE8%以上を目指す
- 機動的な自己株式の取得